

と、新岳火口から火口縁上概ね 100 m の噴気が時々観測されたほか、11 月 13 日に第十管区海上保安本部および 12 月 16 日に海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、新岳火口周辺では引き続き噴気や熱異常域が認められた。また、独立行政法人産業技術総合研究所が実施した火山ガスの観測では、10 月以降、二酸化硫黄の放出量の増加傾向が認められるなど、火山活動が高まった状態が続いている。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

爆発的噴火が時々発生したほか、小規模な噴火も発生した。十島村諏訪之瀬島出張所によると、集落(御岳の南南西約 4 km)で降灰が時々確認された。11 月 13 日に第十管区海上保安本部および 12 月 16 日に海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、御岳火口周辺の状況等に特段の変化は認められなかったが、火口内に溶岩頭が確認された。

地震活動は、B 型地震がやや多い状態が続いたほか、11 月は火山性微動も多い状態となるなど、消長を繰り返しながら推移している。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責：気象庁地震火山部火山課 飯野英樹)

○「道路政策の質の向上に資する技術研究開発研究」の募集について

国土交通省道路局は、道路分野における基礎的な要素技術から、災害時の迅速な対応を可能にする技術開発などの応用技術までの幅広い技術開発研究に対して、1000 万円～5000 万円/年(最長 3 年間)規模の研究を募集しています。提案締切は 1 月 19 日です。

詳細は <http://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html> をご参照下さい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 18 日送信しました)

○2009 年度地球化学研究協会「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集について

【地球化学研究協会】

2009 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します。当協会会員及び関連諸学会会員によるご推薦の何れでもお受けします。下記の要領でご応募下さい。

地球化学研究協会理事長 石渡良志

2009 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

1. 三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、毎年 1 件 (1 名)

2. 奨励賞

対象：2009 年 4 月 1 日の時点において 40 才未満で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金 10 万円、毎年 1～2 件 (1～2 名)

3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文 10 編程度(三宅賞)、2 編程度(奨励賞)を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は、三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。

4. 締切：2009 年 8 月 31 日

5. 地球化学研究協会ホームページ：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/>

6. 応募先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5 三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ(公益信託) 地球化学研究基金 江川康治

7. 問合せ：地球化学研究協会事務担当まで、電子メールでお願いします。

E-mail : citaro1939@yahoo.co.jp

または t-sagi@m3.gyao.ne.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 30 日送信しました)

○日本地球惑星科学連合の会員登録

日本地球惑星科学連合が社団法人として 12 月にスタートし、1 月 9 日から 5 月の連合大会の講演申込と同時に会員登録も開始しました。これまで連合には日本火山学会員の約 8 割の方が個人登録されていました。このたびの連合社団法人化を機に改めて「会員」登録を行って下さい(これまでの ID 番号は継承されます)。連合の年会費は 2,000 円です。大学院生は 1,000 円です。また、これまで連合に未登録であった方も、是非この機会に連合の会員になられることをお勧めします。会員になると連合大会の参加登録費が 5,000 円安くなる(一般会員の場合)という大きな特典があります。個人会員登録及び

詳細は以下のサイトをお願いします。

<http://www.jpгу.org/>

また、予稿投稿サイトからも登録できます。

<http://www.jpгу.org/meeting/>

○今後のスケジュール

講演申込（早期割引）：1月30日（金）1,500円~/件

講演申込最終締切：2月13日（金）3,000円~/件

事前参加登録締切：4月10日（金）

連合大会：5月16日（土）～21日（木）

なお、日本火山学会は連合の団体会員（年会費10,000円）になることが秋の臨時総会で承認されています。

日本地球惑星科学連合整備準備委員（日本火山学会担当）中田節也

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月14日送信しました）

○「日本・ニュージーランド火山防災フォーラム」開催のお知らせ

国土技術政策総合研究所主催（共催：東京大学地震研究所、NPO法人 環境防災総合政策研究機構）で「日本・ニュージーランド火山防災フォーラム」を開催することとなりました。

本フォーラムは、我が国と同様に島国で火山国であるニュージーランド国で最も噴火活動が顕著なルアペフ火山の危機管理専門家である **Dr. Harry Keys** を招き、防災研究機関合同で、講演およびパネルディスカッション形式で行います。開催内容は以下となりますので、ご興味のある方は御参加宜しく御願ひ致します。

日時：平成21年1月20日（火）13:00～17:00（開場12:20）

場所：三田共用会議所 1階講堂（会場の都合上、先着200名様に限らせて頂きます）

東京都港区2丁目1番8号

内容：第一部 講演

招待講演：Dr. Harry Keys（ニュージーランド自然保護省 トンガリオ/タウポ地域環境保護事務所）

演題「ルアペフ火山火口湖決壊と危機管理対策」

基調講演：藤井敏嗣 教授（東京大学地震研究所）

演題「我が国の火山防災に必要な取り組みは何か」

第二部 パネルディスカッション「新たな時代の火山防災を考える」

コーディネータ：山崎 登 NHK 解説委員 主幹

パネリスト：藤井敏嗣（東京大学地震研究所 教授）

小山内信知（国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター 砂防研究室長）

山里 平（気象研究所地震火山研究部 第三研究室長）

岩田孝仁（静岡県防災局防災報道監 兼 防災情報室長）

松尾一郎（環境防災総合政策研究機構 理事）

お問い合わせ先：

NPO法人 環境防災総合政策研究機構 東京本部
（岡村・飯田）

電話：03-3359-7971, FAX：03-3359-7987,

E-Mail：tokyo@npo-cemi.com

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月7日送信しました）

○共同研究・WSのお知らせ

(1) US-Russia-Japan Partnership in Volcanological Research and Education

(2) 6th Biennial Workshop on Subduction Processes emphasizing the Kurile-Kamchatka-Aleutian Arcs

に関するアナウンスがUSGSのEichelberger氏よりありましたのでお知らせ致します（吉田武義）。

(1) “US-Russia-Japan Partnership in Volcanological Research and Education”

Obviously, this letter concerns the Japan part! There are plans for collaboration in eruption modeling with Koyaguchi-san at ERI later in the project, but we would very much welcome participation by Japanese students and scientists sooner than that, hopefully this summer. The project involves a geochemical, seismic, and geodetic comparison of Bezymianny and Shiveluch Volcanoes in Kamchatka and Mount St Helens in the US (all of which underwent sector collapse followed by explosive and then effusive eruption). We have installed extensive monitoring equipment at Bezymianny and are assembling and studying a complete sample suite. For students, we offer classes in Russian culture, history, and language in Kamchatka and a field seminar at Mount St Helens.

By cc, I'm asking my colleagues at the University of Alaska to provide you with additional information. Also, I've attached an announcement of a conference at the end of June in Alaska that I hope you will consider attending.

Thanks you very, very much for your interest.

Sincerely,

John Eichelberger

(2) 6th Biennial Workshop on Subduction Processes emphasizing the Kurile-Kamchatka-Aleutian Arcs Mitigating

natural hazards in active arc environments Linkages among tectonism, earthquakes, magma genesis, and eruption in volcanic arcs Geophysical Institute, University of Alaska, Fairbanks, Alaska JUNE 22-26, 2009 If you are interested in receiving subsequent circulars concerning this meeting, please go to our website (<http://www.gps.alaska.edu/JKASP/>) and register. If you have any problems with the website or signup page, please contact Jeff Freymueller (jeff.freymueller@gi.alaska.edu).

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月14日送信しました)

○東北大学院 GCOE 地球惑星物質分析スクール

本スクールでは、東北大学のCOE院生の他に、全国の大学院修士・博士課程学生の参加を募集します。

実習の内容や日程は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.gcoe.geophys.tohoku.ac.jp/seminar/school.htm>

東北大学GCOE以外の希望者は、以下の内容を記入の上、電子メールにて2月1日までに申し込みください。申込み順に10名程度、旅費の支給ができます。また、実習課題ごとに数名~10名程度の定員がありますので、申込み人数によってはご希望に添えない場合があります

申し込みおよび問い合わせ先:

東北大学大学院理学研究科地学専攻・准教授

中村美千彦 nakamm@mail.tains.tohoku.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月15日送信しました)

○東北大学大学院 GP スプリングスクール「地球化学からみた分離・輸送現象」

日時: 2009年2月12-13日

会場: 東北大学理学部地学棟5階 COE セミナー室

アクセス:

<http://www.sci.tohoku.ac.jp/ja/third/access.html>

参考 URL: http://www.sci.tohoku.ac.jp/ja/graduate_gp/html/summer_semi-2.html

プログラム

2月12日(木)

- 13:00 スクール開催のご挨拶
- 13:05 橋 省吾「宇宙の元素・同位体分別」
- 14:05 岩森 光「マントル同位体不均質の起源と地球内部の対流・物質分化」
- 15:05 10分間休憩
- 15:15 羽生 毅「希ガス同位体のシステムティクス

とマントルの分化」

16:15 佐野有司「揮発性元素のグローバル脱ガスと大気の進化」

17:15 参加学生によるポスター発表

18:00 第1日終了・懇親会

2月13日(金)

09:00 小木曾哲「マントル中の白金族元素の挙動を理解するには」

10:00 鈴木勝彦「オスミウム同位体を使って考える地球の進化」

11:00 横山哲也「ウラントリウム放射非平衡のマグマプロセスへの応用」

12:00 スクール終了のご挨拶

※後期博士課程院生の方には、先着5名程度、旅費の援助ができます。ご希望の場合には1月末日までに下記連絡先までお申し込みください。

企画・連絡先: 吉村俊平 (博士課程2年)

shumpyos@m.tains.tohoku.ac.jp

助言教員: 栗谷豪・中村美千彦 (地学専攻)

大学院 GP ホームページ: http://www.sci.tohoku.ac.jp/ja/graduate_gp/gp_index.htm

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月15日送信しました)

○「平成19年度第4回 SPARC Japan 連続セミナー」【国立情報学研究所】

第9回 SPARC Japan セミナー 2008

「SPARC 選定誌がやってきたこと」

日時: 平成21年2月13日(金) 13:30-16:30

場所: 国立情報学研究所 12階 1208, 1210 会議室

地図 URL

<http://www.nii.ac.jp/introduce/access1-j.shtml>

URL: <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2008/20090213.html>

概要: SPARC Japan 事業は国立情報学研究所により平成15年度に開始され、第1期(平成15-17年)、第2期(平成18-20年)と活動を続けてきました。その間、SPARC Japan パートナー誌にとっては電子ジャーナル化による論文のダウンロード数の増加、電子投稿査読システムによる海外投稿者の増加、冊子体発行の休止など大きな変化がありました。本セミナーは第2期を締めくくるといふことで、パートナー誌のうち4学会から活動報告をしていただきます。今後の国内学会誌の活動のあり方を考えていきたいと思ひます。

プログラム

13:30 開会

- 1) SPARC 選定誌, 4 学会からの報告
 13 : 30-13 : 50 日本機械学会
 13 : 50-14 : 10 電子情報通信学会
 14 : 10-14 : 30 物理系学術誌刊行センター
 14 : 30-14 : 50 日本動物学会
 14 : 50-15 : 10 休憩
- 2) 質疑応答
 15 : 10-16 : 20 パネルディスカッション
 質疑応答
 16 : 30 閉会

※ 講演の詳細は, SPARC Japan のホームページでご案内いたします。

参加費 : 無料

参加ご希望の場合は, 以下の情報をご記入のうえ, 【第9回 SPARC セミナー参加申込】と題して, SPARC 担当 (co_sparc_all@nii.ac.jp) までお申込ください。
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月6日送信しました)

○「次世代型・火山ハザードマップに関する研究集会」

(独)防災科学技術研究所火山防災研究部つくば火山学セミナー共催

日時 : 平成 21 年 3 月 9 日 (月) 10 : 00~16 : 00
 場所 : 茨城県つくば市 (防災科学技術研究所・研究交流棟セミナー室)

主旨 : 近い将来の火山噴火で実際に役立つ新しいハザードマップのあり方について議論する。

火山防災に役立つ新たなツールとして, 「次世代型ハザードマップ」や「リアルタイムハザードマップ」などの開発に期待が寄せられています。しかし, その新しい「ハザードマップ」の具体的な機能に関するイメージは, 個人々人によって大きくばらつきがあるような印象があります。現在, 標準的に使われているハザードマップの改善すべき点の抽出とともに, 現状の限られた技術や予算・人材の活用と今後必要な技術開発にも焦点を当て, 最も実用的・有効な次世代のハザードマップを作成するには, 今後, 何をやる必要があるのか, どのような方向性がよいのかをリストアップするための議論を行いたく思います。

主な議題 :

○「リアルタイムハザードマップ」や「次世代型ハザードマップ」という看板を掲げたプロジェクトで実際, 何をやろうとしているのか? (国土交通省, 気象庁, 産総研, コンサルタント, 防災科研などの現状に関する情報の共有化)

○実際に噴火が起きたとき, 地元住民や防災担当者ら

は, どのような情報を必要としているのか? (「次世代型ハザードマップ」に盛り込むべき情報に関する意識の共有化)

○今後のハザードマップは, 何を指針として作成していくべきか?

(現状の技術レベル, 人的資源で作成可能なハザードマップの理想像に関する意見の集約)

プログラム (暫定 : 敬称略)

10 : 00 開会の辞 防災科学技術研究所 鶴川元雄

10 : 05 趣旨説明 防災科学技術研究所 藤田英輔

—第 1 部 : リアルタイムハザードマップの概念—

10 : 20 防災対策からみたリアルタイムハザードマップへの期待と課題

国土技術政策総合研究所 布村明彦

10 : 40 噴火前兆・進行中における噴火予知連の立場から (仮題)

東京大学地震研究所 藤井敏嗣

11 : 00 緊急時に必要な情報等 (桜島における事例など) (仮題)

京都大学防災研究所 石原和弘

—第 2 部 : リアルタイムハザードマップ実現のための技術的検討—

11 : 20 緊急減災対策における数値シミュレーション手法の課題

砂防・地すべり技術センター 安養寺信夫

11 : 40 地表面現象シミュレーション技術

防災科学技術研究所 石峯康浩

(12 : 00~13 : 00 昼休み)

13 : 00 次世代リアルタイムハザードマップのための GEO Grid 火山重力流システム

産業技術総合研究所 宝田晋治

13 : 15 気象庁降灰予測システム

気象庁火山課 新堀敏基

13 : 30 火山噴火に緊急的に対応するための火山灰等の調査手法とその利活用

土木研究所 田村圭司

13 : 45 自動降灰・降雨量計による降灰観測と火山灰堆積分布推定法について

日本工営 田島靖久

14 : 00 次世代型ハザードマップの現状と課題—故きを温ねて新しきを知る—

国際航業 佐々木 寿

(14 : 15~14 : 30 休憩)

—第 3 部 : 必要とされるリアルタイム情報とは (総合討論)—

14 : 30 東京都の火山防災対策と緊急時における火山

- 情報への要請 東京都 笹井洋一
- 14 : 45 火山災害の危険度評価手法の検討—那須岳火山地域での試行— 宇都宮大学 中村洋一
- 15 : 00 「昼は雲の柱」にみる噴火危機対応の未来像 静岡大学 小山真人
- 15 : 15 総合討論 司会 中村洋一・藤田英輔
 話題提供 防災士研修センター 宮下加奈
 ・“リアルタイムハザードマップ”の定義
 ・必要とする情報と発信可能な情報とその精度の確認

・有効なツール（フォーマット）の提案
 （16 : 00 終了）

※事前の参加登録の必要はありません。

お問い合わせ先

（独）防災科学技術研究所火山防災研究部

（藤田・石峯・中村）

電話 : 029-863-7537, E-Mail : kazan-ws@bosai.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月6日送信しました）